

職場の力でベースアップ7700円を獲得しよう!

09春闘第1回団体交渉

本部は2月19日、「2009年度賃金引き上げ、夏季手当及び諸要求の申し入れ」に基づき、第1回団体交渉を行いました。

団体交渉では、趣旨説明を行い改めて、7700円のベースアップと夏季手当3.2ヶ月等を要求しました。会社は「交渉にあたっての考え方」を示しました。

次回団体交渉から具体的な交渉となります。09春闘勝利・要求獲得に向け職場の声を結集しよう。

JR東海労の要求趣旨（概要）

米国発の金融危機は、いまや世界各国の実体経済に大きな影響を及ぼしている。日本においても、世界経済の減速により外需は縮小し、内需も消費の落ち込みなどから縮小しつつある。この様な情勢にあって、JR東海の経常利益は、減価償却費や物件費が増加したことにより10.9%の減となったものの、1,331億円の純利益を計上しており、賃上げに対し十分な体力があると考えられる。平成21年3月期の連結業績予想においても1,240億円の純利益を確保できるのは、日々安全・安定輸送のために日夜を問わず、額に汗して懸命に努力した社員によるものである。

2009年度賃金引き上げ、夏季手当及び諸要求を申し入れるので、誠意を持って議論し回答すること。

会社側の考え方（概要）

世界の金融資本市場の危機を契機に世界的な景気後退が見られる中、国内需要も停滞し景気の急激な下降局面にあり、引き続き厳しい状況が続くことが見込まれている。未曾有の経済状況の中、新幹線は昨年11月以降輸送量が対前年同月割れとなり、年明け以降一段と厳しさを増している。厳しい経営環境下にあっても長期的な経済力を肝要しつつバイパス建設の推進や長期債務の縮減という重要課題を推進していかなければならない。

一方当社における諸手当を含めた賃金水準は、既に大企業を上回る水準にまで達している。当社が将来的な負担を伴うベースアップ等による賃金の引き上げ、夏季手当についても現下の業績やその見通し、さらには現在の水準などを踏まえ慎重な判断が必要である。

支払い能力は十分にある！
額に汗する社員の努力に応えよ！